



画像にこだわって世界的企業を目指す

◆会社概要と企業理念

当社は1968年に創業し、資本金は5億460万円、発行済株式数は約750万株である。関連会社はLSI事業を行っているアイチップス・テクノロジー、医療用映像分野の事業を行うフォトロン メディカル イメージング、高速度デジタルビデオカメラの海外販社であるPHOTRON USA, INC、PHOTRON EUROPE Ltd.となっている。

当社は企業理念として、①〈ポリシー〉顧客満足による信頼の創造、②〈ミッション〉顧客の業務効率向上に貢献、③〈ビジョン〉画像にこだわる会社、の三つを掲げている。

基本的には顧客の業務効率向上に貢献することを会社の社会的存在意義と考え、顧客満足による信頼の創造をこのミッション実現のための心構えと位置付けている。そしてさまざまな市場において常に画像にかかわる製品とサービスを事業領域とし、会社のコアコンピタンスとしている。これらの理念を全社員に浸透させ、実践することにより全社員が成長するよう力を入れて活動している。それが必ず、業績向上につながるものと確信している。

◆2007年9月中間期決算概要

2007年9月中間期の売上高は42億45百万円（前年同期比25.3%増）、売上総利益は22億20百万円（同20.0%増）、営業利益は6億35百万円（同97.8%増）、経常利益は6億52百万円（同121.5%増）、中間純利益は4億9百万円（同129.0%増）となった。EPSは56.09円である。資産合計は54億1百万円と、前年同期に比べて7億43百万円の増加となっている。

当社のセグメントは、映像情報機器事業とLSI開発事業の大きく二つに分かれており、映像情報機器事業はさらに三つの部門に分かれている。

- ①Imaging Systems部門：基幹製品である高速度デジタルビデオカメラを中心とする分野。
- ②Solution Systems部門：CADおよび教育システムなどのe-solutionにかかわる分野。
- ③Professional Systems部門：放送局やポストプロダクションなどのプロ用の映像システムのジャンルと、フォトロン メディカル イメージングが行っている医療関係の画像システムにかかわる分野。

LSI開発事業は、アイチップス・テクノロジーが行っている汎用LSIの開発・製造・販売にかかわる分野である。

セグメント別の売上高では、Imaging Systems部門が21億9百万円（構成比49.7%）と約半分を占め、Solution Systems部門は3億96百万円（同9.3%）と前年同期に比べ若干減少した。Professional Systems部門は11億50百万円（同27.1%）と大きく伸ばし、LSI開発事業は5億88百万円（同13.9%）と前年同期比減となっている。

Imaging Systems部門は順調に推移しており、2008年3月期の通期売上高は42億円を見込んでいる。Solution Systems部門は通期では9億50百万円を予想しているが、市場がかなり飽和状態にあり、今後は利益の維持を図っていく方針である。Professional Systems部門は一時縮小していたが、回復してきており、通期では18億50百万円を予想している。LSI事業は外部環境に左右されるところがあり、今期は当初の目標を下回り、11億円の売上高を見込んでいる。

◆各セグメントの現況と中期計画進捗状況

(1) Imaging Systems部門

当部門の中間期のトピックスとしては、まず既存製品「FASTCAM APX-RS」が2006年度日本機械学会優秀製品賞を受賞した。また自動車衝突安全試験分野へ参入するため、小型で耐衝突機能を備えた4ヘッドのカメラを同時に使うことができる新製品「FASTCAM MH4-10K」を開発した。さらに最高67万5,000コマ/

秒を実現したハイエンド機「FASTCAM SA1.1」を投入し、順調に売上を伸ばしている。地域別では海外の売上が伸びており、全体の約6割を占めるようになった。

(2) Solution Systems部門

CADシステムは創業当初からの事業で、現在はパーソナルCAD・土木建築・石材・製造業と幅広い分野で活動している。しかし、市場自体が飽和状態にあり、現在は堅実な売上と利益確保を図っている。e-Solutionは映像を活用したコンテンツ作成と配信システムで、主に学校市場をターゲットに活動を行っている。この事業には4年ほど前から参入しており、少しずつではあるが売上は着実に伸びている。

(3) Professional Systems部門

放送局や映画業界など、プロ用の映像システム分野で活動を行っている。ベルギーのEVS社製のテレビ放送用制作・編集ディスクレコーダーと、イギリスCintel社製の映画フィルムからビデオ映像への変換装置などを扱っている。特に上期はEVS社製品の売上が順調であった。医用画像システムは循環器部門に特化した製品を扱っており、動画DICOMデータのビューワ、サーバなどを医療機関に直接納めている。

(4) LSI部門

主要な市場は、FPD・プロジェクタ・MFP・ハイエンド業務用機器・アミューズメント市場などである。また今期新たに、ホームシアターユースのAV機器への採用が決まっている。LSI事業は2001年にフォトロングループ入りし、2004年までのディスプレイのデジタル化対応需要増の後に、セットメーカーの部品内製化の影響で売上が下降したが、2006年からは新たにアミューズメント分野への参入により再び売上が伸びている。今期は残念ながらアミューズメント分野の規制強化によって売上高は前期を下回る可能性が高い。

当社グループの中長期構想（Cプロジェクト）は最終年度を2011年3月期に置き、売上高目標は100億円を掲げている。

今年はちょうど計画の3年目で今期の売上目標は81億円であり、現在のところ策定時の計画（3年目80億円）を上回ることができそうである。今期は改めて残り3年間の中期計画を策定する予定である。

◆Imaging Systemsの戦略

主力事業であるImaging Systemsの状況と戦略であるが、高速度デジタルビデオカメラにおいて、当社は産業・大学・生産ラインなどに強みを持っているが、自動車・自動車衝突・防衛などのジャンルは不得意分野であり、国内では競合他社がかなりシェアを占めている。こうした状況に対し、新製品「FASTCAM MH4-10K」を不得意であった自動車衝突分野を対象として投入した。

また逆に得意分野である産業・大学・生産ラインにはハイエンド機「FASTCAM SA1.1」を投入し、より一層の市場シェア拡大を図りたいと考えている。国内販売台数では約三分の一のシェアがあると認識している。

海外輸出においては国内競合他社を上回っていると思われる。世界マーケットではアメリカの競合他社が最大と思われるが、今期でほぼ拮抗、あるいは上回る売上を上げられると推定している。「FASTCAM MH4-10K」は、世界マーケットにおいても自動車衝突安全試験分野への参入という点で大きな武器になると考えている。また「FASTCAM SA1.1」の投入も、得意分野のさらなる強化への有効な戦略になると期待している。この勢いをそのまま継続し、世界のトップシェアを占めることが当社の目標と考えている。

◆研究開発費と通期業績予想

通期の研究開発費はフォトロンが8億80百万円程度、アイチップス・テクノロジーで3億70百万円程度を見込んでいる。研究開発費は毎年、フォトロンでは売上比15%前後、アイチップス・テクノロジーでは売上比30%程度を投じている。これは意識したものではなく、自然体で行ってきた結果である。

2008年3月期はこの8月に発表した修正計画どおり、売上高は81億円（前期比13.4%増）、営業利益は7億90百万円（同32.0%増）、経常利益は7億90百万円（同50.8%増）、当期純利益は4億50百万円（同32.9%増）、EPSは61.66円を予想している。

◆ 質 疑 応 答 ◆

上期は非常に調子がよいようだが、下期は営業利益の伸びが鈍化する見込みになっている。背景を教えてください。

要因は三つある。第1の要因としては、上期は開発費の計上が少なく、その分利益が大きく出ていたことである。下期は上期分も含めた開発費投入を予定しているため、表面上下期の営業利益が圧縮される形になる。

第2の要因は、Professional Systems部門で下期に予定していた大きな商談が、顧客の事情で前倒しとなり上期に実現したことである。上期が上がり、その分下期が下がることになる。第3の要因はImaging Systems部門で上期にヨーロッパで大きな商談があったが、下期には具体的な予定がないため、このような計画としている。

新製品の投入が利益率向上に貢献しているのか。

Imaging Systemsの従来製品も引き続き順調であるが、利益率の改善という点では新製品が貢献をしている。

(平成19年12月4日・東京)